

小学生向け

プログラミング教室

東百舌鳥高校

2020年から小学校におけるプログラミング教育が必修になるのを受けて、



10月29日(土)に大阪府立東百舌鳥高等学校(中区)で小学生向けのプログラミング教育の授業が行なわれた。写真

東百舌鳥高校の開かれた学校づくりの一環で、情報を担当している稲川孝司教諭が近くの東百舌鳥小学校の生徒限定で行うプログラミング教室。今回は、はじめてプログラミングに取り組み児童がcode.orgの教材を使って簡単なプログラミングを体験した。

稲川教諭は「小学校段階におけるプログラミング教育はコーディング(プログラミング言語を用いた記述方法)を覚えることではなく、プログラミング的思考(論

知的思考)を育むことが目的で、コンピュータに対し意図した処理を行うよう指示を与えながら、試行錯誤して自分の考えをまとめていき、論理的・創造的に思考して課題を発見し、問題を解決していくプロセスが大切である」と意義を話す。

子どもたちは最初、マウス操作もぎこちない状態だったが、すぐに慣れて画面上のブロックを組み合わせて与えられた課題のプログラムを次々に作り、どこが間違えているのかを考え、正しい答えになるように組み合わせを変えていた。次回の授業では、Scratchを使ったプログラミングを行う予定となっている。